「紀要」創立五十周年記念号刊行にあたって

学長　小池　明

女子短期大学は本年創立50周年を迎えました。

前身の本州女子短期大学からは創基56年、設立に当たってはこの地域のたっての希望に拠ったということを今、更めて、私たち本学関係者、勿論、在学生も含めて自覚、再確認しなければなりません。

信州の学海と呼ばれる上田の地で、高等教育研究機関としての地歩を確かなものとして今在るのは地域の期待に応えて使命を果たしてきた結果であると、自信を持って言えることは有難く、草創期以来の先輩方への感謝も一入です。

本学は、地域コミュニティの知の拠点としての負託に応える可く、教育と研究の二本の柱を使命とし、双方に弛まぬ注力をしてきました。教育の面では、教養と専門知識・技能を兼ね具えた有為な女性を育成す可く「敬愛、勤勉、聡明」という建学の理念の下に女性の高等教育に専心し、１万１千余の卒業生を世に輩出、それ以外にも地域、学外の一般人にも公開講座などを通して芸術表現を含む多様な知的サービスの提供をも行ってきました。

研究という柱に就いても教員の夫々が専門分野に就いての研究と研鑽を深め、実践によって教育に活かす一方、併行して論文などの形で著し、学内外との交流を通して更に研究を発展させてきたのです。そのことで学問、学界への貢献を果たし、当然のこととして研究者自身の成長にも繋げてきたことも誇りです。

教育、研究というこの二つの分野は、夫々が独立した、或いは切り離された別個のものではなく、相互に有機的な交流、連携を持ち、影響し合うことでシナジー効果も発揮されてきました。学際、インターフェイスの重要性も含めて今後もその関係に変わりはないと確信しています。教育の実践現場で

得られた体験、知見は論文等によって理論化され、それが多方面からの分析、検討、評価――批判をも経て実証研究として一定の完成を見る。このプロセスは学問発展の基本です。

本学に於いては、学内の斯かる論文発表の場として、「紀要」と「学術研究所報」の２つの基幹論文集を定期的に刊行し、学内だけでなく学外からも閲覧できる様にしています。

広く且つ多くの関係者の批評、批判に堪えることを厭わない、オープンな姿勢を保持しているのです。学問の府としては、その姿勢を通して学問の発展に資することを常に期することは自明です。２種の論文集のうち、研究所報に就いては論文のみならず研究ノート、エッセイ等も掲載する一方、紀要に就いては所報よりも一層学術的な記述、論文に比重を置いた編集方針をとっていることで、寄稿者の姿勢、論文内容もそれを反映していると言えますが、いずれも本学教員の考え、研究の成果を発表する貴重な場であることは同じです。

紀要の今号は50周年の記念号として、本学のこれまでの研究分野の成果を発現し、更に今後に続く論考、論文の掲載があることを期待しています。研究者が研究の成果を紀要などにて敢然と公開し、様々な批評を得て次の研究者に繋いでいくことが学問の発展、醍醐味と言って過言ではないとの信念に沿って、紀要が益々学術誌として真価を発揮し、当に洛陽の紙価を高めることになれば研究者冥利に尽きる、そのことを願って已みません。

Every day is a gift.